

病院を受診された患者さまへ

当院では機関長の許可を得て、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名 (研究番号)	横断研究による変性椎間板におけるヒストンメチル化による細胞外基質発現制御の機序の解明
当院の研究責任者 (所属)	琉球大学大学院 医学研究科医学専攻 整形外科学講座 教授 西田康太郎
他の研究機関および 各機関の研究代表者	那覇市立病院 整形外科 医員 青木佑介
本研究の目的	変形性頸椎症や変形性腰椎症、椎間板ヘルニアなどの椎間板変性を有する患者から手術により切除された椎間板組織の残余検体の一部を使用し、過去の症例については後ろ向きに、未来の症例については前向きに、椎間板変性に関わるプロテオグリカンやⅡ型コラゲンなどの細胞外基質に対するヒストンメチル化による発現制御を明らかにし、将来的な治療戦略となる可能性を探索することを目的とします。
研究実施期間	研究機関の長の許可日～2030 年 3 月 31 日
調査データ(該当期間)	2009 年 4 月～2024 年 10 月の期間の情報
研究の方法 (利用する試料・情報等)	●対象となる患者さま（以下の基準をすべて満たす方） ・ 2009 年 4 月～2024 年 10 月の期間 ・ 琉球大学病院、那覇市立病院 ・ 変形性頸椎症/変形性腰椎症/椎間板ヘルニア等の椎間板変性 ・ 椎弓形成術、椎弓切除術、椎間固定術、椎間板ヘルニア摘出術を施行した症例 ●利用する試料・情報 初診日、年齢、性別、症状、部位、CT/MRI 画像所見、骨密度、手術日、術式、術後合併症、病理学的所見、転機、手術により切除された椎間板組織の残余検体の一部
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	他機関に情報提供する場合は、データをパスワード設定しメールによる送付を行います。病理学的評価は、琉球大学・那覇市立病院ともに、既存のパラフィンブロック、もしくはホルマリン固定された検体を用いて、琉球大学整形外科で新たにスライドを作成し、免疫染色を行います。那覇市立病院の手術で採取した残余検体は整形外科病棟の 4℃冷蔵庫内で一時的に

	保管され、手術当日、もしくは翌日に琉球大学へ研究責任者（青木佑介）、もしくは、研究分担者（吉川誉士郎）が移動させます。
試料・情報の二次利用	本研究で取得した試料・情報の利用は、別の新たな研究に利用する可能性があります。その場合は、再度、倫理委員会へ申請し研究機関の長の許可を得たうえで、再度お知らせいたします。
個人情報の取り扱い	研究において対象者の情報を扱う際は、個人情報とは関係のない符号または番号を付して匿名化します。論文作成時、学会発表時には個人が特定できる情報は一切用いません。また、同意の範囲外において情報の利用を行いません。匿名化するための対応表は各機関で管理し、他の機関に提供しません。
本研究の資金源 （利益相反）	琉球大学整形外科学講座医局運営費の研究費で行います。 （利益相反はありません。）
お問い合わせ先	電話：098-895-1174 担当者：整形外科学講座 青木佑介
備考	